

# 平成30年度予算の要求について(ポイント)

## 1 構造的財源不足はゼロとなったが、平成30年度の財政環境は引き続き厳しく、予断を許さない状況（要調整額は約30億円）

- 平成17年度予算編成前の段階で約400億円と見込まれた財源不足については、職員数の削減・公の施設の見直し、マイナスシーリングの設定による事務事業の見直しなど徹底した行財政改革により、平成28年度当初予算編成以降解消。
- しかしながら、平成30年度については、平成28年度の国の一般会計税収が7年ぶりに前年度比で減収となったこと等から地方交付税の削減が懸念されることに加え、福祉・医療などの社会保障関係費が高齢化の進展等に伴い増高するほか、新幹線建設等に係る公債費がなお高い水準で推移すること等から、現時点で約30億円の要調整額が見込まれるなど、本県財政を取り巻く環境は厳しく、予断を許さない状況。

## 2 予算要求基準の概要

### (1) マイナスシーリングの設定

ゼロベースの見直しによる財政健全化の努力を継続するとともに、スクラップ&ビルドを徹底し、政策の重点化・効率化を促進。

### (2) 「とやま未来創生戦略推進枠」の設定

「とやま未来創生戦略2017」に基づき、人口減少対策や、将来に向け持続的な地域活力創出を図る施策で、高い効果が見込まれる取組みに重点配分。

### (3) 「新総合計画推進枠」の創設

新総合計画の策定を見据え、基本政策「活力」「未来」「安心」及び重要政策「人づくり」を柱とする政策目標を実現し、「人が輝く元気とやま」の創造のため、高い効果が見込まれる重点施策に優先配分。（「富山県経済・文化長期ビジョン」に掲げる将来像や構想の実現に向けた施策を含む）

### (4) 歳入確保、歳出効率化に対するインセンティブ導入

財源確保と歳出の効率化を促進するため、各部局の努力による新たな歳入確保額や歳出削減額については、その額を一般行政経費に上乗せして要求を認めるインセンティブを新たに導入。

< 予算要求基準（詳細は別紙のとおり） >

1 重点施策経費	(1) 「とやま未来創生戦略推進枠」… 事業費で概ね25億円 (2) 「新総合計画推進枠」…………… 要求枠上限は設けない (3) 「水と緑の森づくり枠」…………… 水と緑の森づくり税の範囲内	
2 投資的経費	国の予算、地方財政計画等を踏まえ、予算編成過程で決定	
3 一般行政経費	△15%（=H29）	
4 経常的事務経費	±0%（H29：△2%）	} 物価動向の上昇等を踏まえ 前年度予算額の範囲内とする
5 試験研究費	±0%（H29：△1%）	

## 3 予算要求基準通知の前倒し

要求基準通知を大幅に前倒し、施策の検討期間の確保により新規事業等のブラッシュアップを促すとともに、予算編成事務の平準化により時間外勤務の縮減を図る。

※ なお、幼児教育や高等教育の無償化などの新しい政策については、現時点では不明確な点が多いことから、今後、本県財政への影響等も十分見極めつつ、国の予算編成の動向等も踏まえ、機動的に対応する。